

# 評価結果概要

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 2月 17日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0770102481		
法人名	メディカル・ケア・サービス東北株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム福島宮代		
所在地	〒960-0116 福島県福島市宮代字乳児池 1 3 1 (電話) 024-552-1335		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成21年1月9日	評価確定日	平成21年3月2日

【情報提供票より】(平成 20年 12月 7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 13.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての 1 ~ 2階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,250 円	その他の経費(月額)	3~11月10000 円 12~2月13000 円	
敷金	有( ) 円 (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 80,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護 1	3 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	7 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	名	要支援 2	名		
年齢	平均 83.9 歳	最低	75 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 わたり病院	五十嵐歯科医院
---------	------------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人はグループホームを全国に展開しており、事業所では法人の運営体制を活用しながら、事業運営をしている。開設以来地域密着型サービスを踏まえた事業を積極的に実施しており、今年度からは運営推進委員や地域包括支援センターの協力を得て、地域で年間100名を目標として「認知症サポーター養成講座」を約2ヶ月に1度主催し、近隣住民へ認知症の理解を深めることに取り組んでおり、現在まで約50名の実績をあげている。また、利用者の誕生会のプレゼントは他の利用者が全員で相談して選んでおり、巾着(小物入れ)のプレゼントのときには材料を選び、裁縫の得意な利用者が手作りでプレゼントした。毎回趣向をかえて実施しており、利用者の楽しみとなっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	介護計画の内容の表現方法については、具体的に表現しており、わかりやすく記載され改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組んでおり、評価結果は今後のサービスに活かすことにしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議は定期的(奇数月)に開催しており、回を重ねるごとに委員から様々な提言があり、事業所の運営や地域活動に反映させている。会議は事業所の行事にあわせて開催したり、他の模範的事業所の視察をしたりして、運営推進会議の意義を十分活かした活動をしている。会議には委員の他にもサポーター養成講座の受講生等地域住民の参加もある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	法人で年1回利用者の家族にアンケートを実施して、家族の意見の把握に努めており、運営に反映させる体制となっている。また、家族の面会時には職員が利用者の状態を報告し、ゆっくり家族と話す機会を設け、意見の把握に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	認知症サポーター養成講座を通して、地域との連携がより深まり、近隣住民のボランティア(野菜作りや花壇の手入れ等)も増え、地域の方が気軽に訪れている。また利用者が近くの大学の園芸療法講座に参加したり、利用者の手作りの「交通安全お守り」を幼稚園へプレゼントして交流しており、地域に根ざした事業所となっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスを踏まえた理念となっており、さらに各ユニットごとの理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニット会議で毎回唱和し、理念の共有を図っており、全職員で理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	認知症サポーター養成講座を通じて地域との交流が増え、事業所の行事（夏祭り、盆踊り等）に参加してもらったり、野菜作りや花壇の手入れにボランティアの参加があり、日常的に地域との交流が増えている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が外部評価の意義を理解し、自己評価は日常のケアを振り返りながら全員で取り組み、具体的な改善に取り組んでいる。また法人では独自に3ヶ月に1度内部評価を行い、サービスの向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的開催しており、委員から様々な提言があり、運営に反映させている。内容は事業所の報告等にとどまらず、事業所の行事等に参加して利用者と共に過ごし、日常生活の把握に努めたり、他の事業所の視察等を行うなど運営推進会議の意義を十分活かした活動となっている。		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族へは月1回定期的に利用者の状況や金銭出納等を報告しており、毎月発行の広報誌では事業所の行事等を知らせている。面会時には詳しく状況を説明し、金銭出納帳にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年法人から直接全事業所の利用者家族へアンケート調査を実施し、家族の意見の把握に努めており、出された意見は法人内の全事業所で情報を共有し、運営に反映させる体制となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、退職者等による異動は少ないが、法人内の異動（特に管理者は昨年1月、10月に異動があった）があり、異動にあたっては利用者のダメージの軽減に努めているが、利用者・家族等は管理者等の異動には不安を感じている。	○	法人内の異動はやむを得ないと思われるが、最小限にとどめるよう努められ、異動の際には家族等に広報誌等で通知するだけでなく、事前に知らせるなどの配慮が必要と思われる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員育成に努めており、年間研修計画により職責、経験等に応じた研修を実施している。また、外部の研修会にも積極的に参加しており、研修終了後は記録にまとめ会議等で報告し、知識・技術の共有が図られている。職員の資格取得についても支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県認知症グループホーム連絡協議会等の研修会に参加し、情報交換を通してサービスの質の向上に役立てている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りでは、利用者から種まきや収穫の時期等を教えてもらい、職員と共に行っている。また、貼り絵等の作品を職員とともに利用者同士で製作し、学習センターの作品展に出品している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から利用者の思いや意向の把握に努めており、家族からの情報も得てケアに反映させている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には必ず利用者、家族、職員その他関係者が参加し、生活記録や職員会議等で話し合ったことをもとに利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画の見直しを行っており、状態変化に対しては主治医や家族と話し合い、随時見直しをしている。短期長期の援助目標等は具体的でわかりやすく表現されており、現状に即した計画となっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医から適切な医療を受けられるよう支援している。受診には家族が同行している。状況に応じて職員が同行し情報の共有をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた事業所の指針を作成し、全利用者と家族の意向を把握をしており、同意書を得ている。また、新たに24時間対応の往診医との連携体制が整備されている。		ターミナルケアの体制が整備されたのに伴い、全職員で研修会や話し合いを行い、方針の共有をされることが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者の生活歴を大切にし、誇りやプライバシーを損ねることのない言葉かけ等に配慮しており、職員同士の言葉づかいにも十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで生活できるよう起床、就床、レクリエーション等希望にそって支援しており、利用者の体調や思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は法人の栄養士が作成したものを基本としているが、季節の食材や畑で収穫した野菜を利用している。食事の準備等は職員と共に利用者がそれぞれ自然に行っており、食事は職員も一緒に楽しんでいる。食事を長時間かけて食べる利用者にも暖かく見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっている。時間等は利用者の希望により支援しており、夜間の入浴にも対応している。利用者の体調によっては清拭や足浴等の支援をしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	野菜作りや裁縫、編物等の趣味等が続けられるよう支援している。入居前に毎年干し柿作りをしていた利用者の希望により自宅から皮むき機を持ってきてもらい、みんなで干し柿作りに挑戦し、皮をむく人、縄につける人、軒に吊るす人それぞれできることをして楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	季節や天候にもよるが、毎日散歩の時間を設け、利用者の希望により支援しており、買物やドライブ等も希望により支援している。また、お花見、紅葉狩り、梨狩り、苺狩り、四季の里見学、七夕祭り見学、外食等毎月外出の計画をし、実施している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	きめこまかな見守りとさりげない声かけで対応し、日中は施錠していない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合防災訓練は年2回実施しており、あらゆる場面を想定した訓練は月1回実施している。地元消防団や近隣住民の協力も得られるようになっている。災害時の食料品等は備蓄されている。		火災等には地元消防団や近隣住民の協力が必要不可欠である。協力を得られる体制になっているが、一度事業所を見学してもらい、事業所の内部を把握してもらうことも必要と思われる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士が作成した献立を利用し、栄養バランス等に配慮している。利用者の食事量や水分の摂取量は記録し、体調や体重の変化等健康管理に役立てている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、テーブルやソファが機能的に配置されている。炬燵のある空間には雑誌、新聞やCD等も備えてあり、季節感や生活感を取り入れ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。利用者は思い思いの場所で自由に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とも利用者がテレビや冷蔵庫、炬燵等をなじみのものを持ち込み、居心地良く過ごせるよう支援されている。各居室とも明るく清潔に保たれている。		

※  は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 愛の家グループホーム福島宮代

記入担当者名 中木 重光

#### 評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。